

今日のトピック 豪州の金融政策：据え置きも必要なら追加利下げへ（2019年8月） 豪ドルは米中貿易問題や利下げ期待の影響を受けよう

ポイント1 連続利下げ後の据え置き 政策金利は1.00%維持

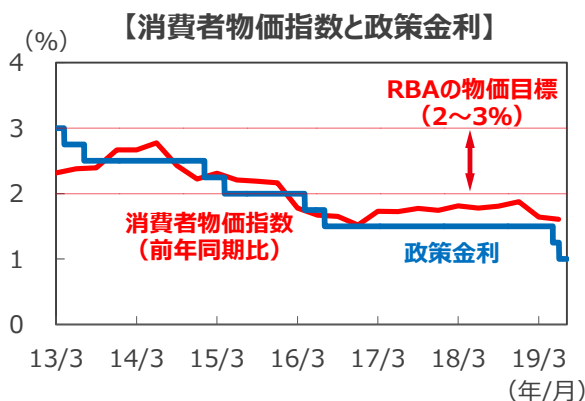
- 豪州準備銀行（RBA）は、8月6日に開催した金融政策決定会合で、市場予想どおり、政策金利を1.00%に据え置きました。6月、7月と2会合連続で利下げした後の据え置きとなりました。

ポイント2 低金利の長期化を示唆 必要ならば追加利下げへ

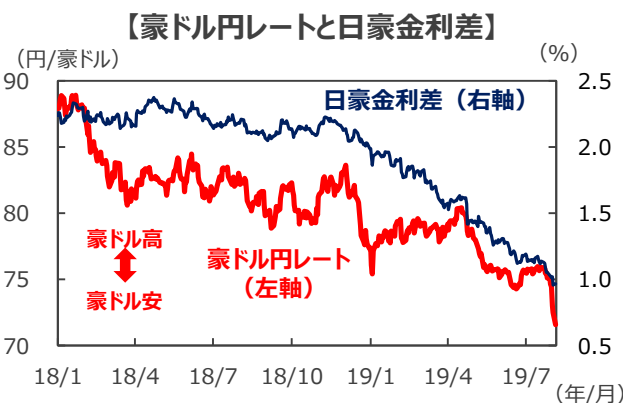
- RBAの声明文では、雇用の増加をサポートし、インフレが目標に到達する確信度を高めるため、低金利の長期化が必要となることが示唆されました。
- インフレ率の目標達成には想定より時間がかかるとし、2%に達するのは2021年になると予想されています。一方で低金利や減税、インフラ支出等が支えとなり経済は徐々に回復するとし、2019年は+2.5%、2020年には+2.75%近辺の成長を見込んでいます。
- 今後については、引き続き労働市場を注視するとして、持続可能な成長とインフレ目標の達成のため必要ならば追加利下げを実施すると述べています。

今後の展開 豪ドルは米中貿易問題や利下げ期待の影響を受けよう

- 8月1日、トランプ米大統領は中国からの輸入品約3,000億ドルに対して9月1日から10%の追加関税を実施すると表明しました。これを受けて中国の景気減速懸念が強まり、中国を最大の貿易国とする豪州もその影響から足元の豪ドルが7月末に比べ対円で4%程度下落しました。



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2019年4-6月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2019年8月6日。
(出所) Bloomberg L.P.、オーストラリア統計局のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



(注1) データは2018年1月1日～2019年8月5日。
(注2) 金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

- 米中貿易問題に対する先行き懸念が高まっており、今後の通商協議に関する報道等により豪ドルは一喜一憂する展開が見込まれます。また、RBAによる利下げ期待が根強く残っていることは豪ドルの上値を抑制すると考えられます。

ここもチェック! 2019年8月 2日 トランプ大統領の対中追加関税表明を受けた米国金融市場
2019年7月25日 鉄鉱石価格・生産と豪経済・豪ドル

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。